

祝 辞

本日、長崎総合科学大学に入学された新入生の皆さん、入学誠におめでとうございます。よくぞ、わが大学においでくださいました。心より歓迎申し上げます、と共に理事長として皆様の新たな人生の門出を祝して一言歓迎の言葉を申し上げさせていただきますと思います。

本来ならば、皆さんとご家族の皆様共々一堂に会して、晴れやかな皆さんの素顔が見ながら対面でのお祝いをいたしたいところではありますが、残念ながら、今年もまだコロナ禍の中での入学式となり、このようなWEBでのあいさつとなつた事は残念でなりません。

本学は長崎市内から一山超えた橘湾に面し、普賢岳も見える学問を学ぶには静かな素晴らしい環境の場所にあります。

本学は今年が80周年の1942年、長崎港の入り口にある香焼島、現在、三菱重工業の造船所があるところに設立された川南高等造船学校を母体としております。その後、長崎造船短期大学となり1961年に今のこの地に移転し、長崎造船大学を経て、昭和53年(1978年)に時代の変化に合わせるべく長崎総合科学大学と名称を改め、今日に至っております。

本学は、長崎県内で唯一の私立の理工系大学でありまして、以前から日本各地はもとより、多くの外国からの留学生も学んでいます。一貫して「実学実践」の建学の精神に基づき、日本のモノづくりの屋台骨を支える技術者を育てるとともに、先進的な科学技術の研究開発にも大きく貢献してきています。

昨年、一般の科学雑誌の「ニュートン」5月号に大学ランキングの特集が組まれていましたが、その中で、理工系研究力ランキングは全国の大学で33位、物理学の研究力では13位で、私立大学ではなんと名門の早稲田大学に次いで全国で2番目にランクされていて、地方にある小さな大学ながら先進的な科学技術の研究開発にも大きく貢献している素晴らしい先生方がいる大学であります。

これまでの卒業生は2万人を超え、(この私もその一人ですが)海外からの留学生を含め、多くの先輩方が全世界のモノづくりの最前線で、重要な役割を担い、大活躍しています。

本学は時代のニーズに合わせて、現在、工学部5コースと総合情報学部3コースの計8コースを開設しており、創業時からの伝統ある日本で唯一の船舶工学コースをはじめ、時代のニーズに合わせた医療工学コースや知能情報コースなどに全校で約800名が学び、大学としては小規模ですが、それだけにアットホームで一人一人に行き届いた学習指導ができる様に考えて、学生の皆さん

を大切に育んでいく努力しているところであります。

このコロナ禍で多くの大学がオンライン授業で行っている中、わが大学は、いろいろと対策を講じながら、本来のあるべき姿である対面での授業を中心に、授業を実施してまいっております。これもひとえに学生の皆さんへの学習効果を考へての事であります。また、皆さんが安全安心な環境で学んでいただくために新たに校舎の建替えや耐震化も計画していますし、今後も時代のニーズに合わせたより良い学びの場に変えていく予定であります。

これから皆さんはここで学び、いずれ社会に出て社会人として活躍していくわけでありますが、この4年間はそのため基礎固めをする時間でもあります。皆さんの年齢は最も多感な時期であり、興味のあることに対しては吸収力のすさまじい時期でありますので、この時期をどう思うかという思いをもって、何をして過ごすかで人生が決まってくるといっても過言ではありません。

そこで皆さんにお願いしたいことは、まず第一にしっかりとした人生の目標や夢を描いて見つけてもらいたいということです。すでに、目標や夢を描いて本大学に入学された皆さんもいることと思います。

目標や夢は高く大きいほど良いかと思えます。山登りでも5合目まででいいやと思っている人は頂上へは到達できませんし、金メダルを取りたいと思わなければ金メダルはまずとれません。私の経験からとも言えることですが、夢をもって一つのことをとことん突き詰めていけば結果として何らかの大きな成果が得られるということです。第2は読書の習慣をつけることです。最近は何とんどスマホ等で情報を簡単に得られ便利になり、新聞すら読まない若者が増えてきたといわれます。私自身もそれほど本を多く読むほうではありませんが、本で得た知識はなぜか脳に刷り込まれ知識として蓄えられるような気がします。そして専門以外のことも読書等を通して学んでほしいと思えます。

学問に境界があるわけではありませんし、昔のレオナルド・ダ・ヴィンチに代表されるような学者は、画家であり科学者であり哲学者であった人が大勢います。物理学に音楽や美術の感性も必要なこともあるのです。

とにかく読書を通して色々な事を学んで、幅広い人間になってほしいと思います。わが大学の図書館も大勢の学生が集う場になることを期待します。そしてもう一つ大事なことはこの4年間に人生の友といえる友人を作ってほしいと思います。学生時代にできた友人はある意味で同じ志を持っているわけで、私の経験からも人生において最も頼りになる友人は大学時代の友人です。

このコロナ禍では大勢での集まりも制限され友だちもできにくいかと思えますが早く信頼できる友人を持つことも大切です。

最後に思いの力についてお話いたします。

「人間は考える葦である」と言ったのはフランスの哲学者であり物理学者の

ブレーズ・パスカルのことはご存じの方も多いかと思います。人間は自然の中では最も弱い一本の葦であるがそれは考える葦である。考えることで大きなことを成し遂げる存在であるということを言っているのです。

世界的な企業である京セラを創立し、JALの再建をも成し遂げた若き日の稲盛和夫のエピソードについてお話しておきます。

松下電器産業（現在のパナソニック）の創業者であった松下幸之助の講演会で、傍聴者の一人が「松下さんはなぜここまで成功したのか、その秘訣を教えてください。」と質問されたそうです、それに対して松下幸之助は「思うことですな。」とだけ答えたそうで、多くの聴衆が啞然とした様子で聞いていたようですが、若き日の稲盛和夫は「ああそうか、思えばいいのか、強く思い続ければよいということか。」と閃いたそうです。ビルだって、船だって、橋だって、社会の仕組みだって、誰かが思い、強く思い念じたからできたのです。この世は人間の思いからできているといっても過言ではありません。どうか皆さんも自分の目標や夢を強く思い念じてください。

私も社会に出て50年になります、社会の変化は確実に加速度的に早くなって来ていますので、時流に流されない普遍的な価値観に基づいた自分自身の生き方をしっかり見つけてもらいたいと思います。目標や夢を実現するためのこれからの4年間です。

我々もその為のお手伝いを全力でさせて頂きますし、4年後の皆さんの成長を楽しみにしていますので頑張ってください。

令和四年四月四日

長崎総合科学大学

理事長 田頭 慎一